

李禹煥鑑賞ガイド

中学は釜山の学校。朝鮮戦争が始まる。

文学にのめりこんだり、

生物部に入り植物採集にこたり。

一九三六年、李禹煥は韓国の南、慶尚南道の山奥で生まれた。

子どもころから絵や書を書き白う。

とりわけ基本となる点のつけ方線の引き方をよく習ったという。

高校はソウル。図書部をつくり、文学賞に応募。

さらに文学にのめりこむ。

隣にあるおじさんの家のステレオでレコードをきいたり、

面白くて気持ちはいい

ふしぎ!! まわると音がでる

作品をみる時のやくそく

美術館には作品を守り、みんなが気持ちよく過ごすためのルールがあります。

<p>走らず、ゆっくり歩こう</p>	<p>作品や展示ケース、壁にはさわらない 手を前にはばしてもとがけない場所から見よう。</p>	<p>大きな荷物は展示室に持っていない</p>
<p>食べたり飲んだりはできません</p>	<p>えんぴつで×もしょう</p>	<p>展示室内では小さな声で話そう となりの友達に聞こえるくらいの声で話そう。</p>

李禹煥鑑賞ガイド

東京会場 国立新美術館 企画展示室1E
2022年8月10日(水)~11月7日(月)
休館日: 火曜日
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
お問い合わせ: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
HP: <https://www.nact.jp>

兵庫会場 兵庫県立美術館
2022年12月13日(火)~2023年2月12日(日)
休館日: 月曜日
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1
お問い合わせ: 078-262-1011
HP: <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

主催: 国立新美術館、兵庫県立美術館、朝日新聞社、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
協力: SCAI THE BATHHOUSE
展覧会HP: <https://LeeUFan.exhibit.jp/>
編集: 国立新美術館 兵庫県立美術館
マンガ: 満腹家もぐもぐ
印刷: 能登印刷株式会社
発行: 国立新美術館、兵庫県立美術館
発行日: 2022年8月10日
©国立新美術館、兵庫県立美術館

新国立新美術館 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

兵庫県立美術館 HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

日本博 JAPAN CULTURAL EXPO 心をつなごう。 Art Moves Us All

令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト

2000年ころから世界各地で活発に個展が開催されるようになる。

- 2016 エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルグ
- 2008 アジア美術館、ベルリン
- 2001 ホン市立美術館
- 2008 ベルギー 王立美術館、ブリュッセル
- 2019 ホンセントルー・センター・メクス
- 2013 狩猟自然博物館、パリ
- 2005 サン・テティエンヌ近代美術館
- 2007 ガネチア・ビエンナーレ
- 2013 サン・ローラン教会、アルル
- 2011 ソロモン・R・グザンハム美術館、ニューヨーク
- 2019 ティア・ピージョン、ニューヨーク
- 2019 ハーシュホーン美術館・同家の庭、ワシントンD.C
- 2005 横浜美術館
- 2003 ホナム美術館とロダン・ギャラリー、ソウル

二〇〇〇年に出版した『余白の芸術』は世界各国で翻訳出版されている。

二〇一〇年には高松宮殿下記念世界文化賞を受賞。その他余勲も多数。

二〇一四年、フランスヴェルサイユ宮殿

二〇一〇年 香川県直島に李禹煥美術館。

二〇一五年 韓国釜山に李禹煥空間。

二〇二二年四月 フランスに李禹煥アルル。

二〇二二年、フランスアリスカン

そして十七年、日本の大規模な回顧展が行われていること!! 美術館のこの空間。

作品を置くことでその場が違って見えてくる。

歴史的な場所と対峙

個人美術館 いろいろな空間で見られる美術館

Lee Ufan Museum Photo: Tadasu Yamamoto

Courtesy: Busan Museum of Art

(c) Lee Ufan 2022 Photo(c) Lee Mina

自己は有限でも、外部との関係で無限があらわれる。表現は無限の次元の開示である。

李禹煥



一九五六年、ソウル大学校美術大学に入学。



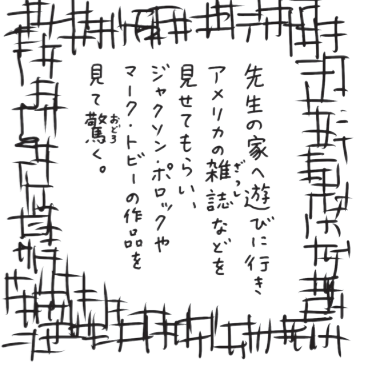
夏休みに横浜に住むおじさんへ漢方薬を届けるための船で、ソソリ来日。



おじさんのすすめ、日本に残り、拓殖大学で日本語を学ぶことに。



日本大学文理学部哲学科へ編入。



先生の家へ遊びに行き、アメリカの雑誌などを見せてもらい、ジャクソン・ポロックやマーク・トビーの作品を見て驚く。



一九六〇年代前半には当時の多くの人々が、もう一つ、韓国に韓国の軍事政権反対や南北統一運動に深く関与した。



大学卒業後は演劇をしたり、



日本画の技法を学んだり、

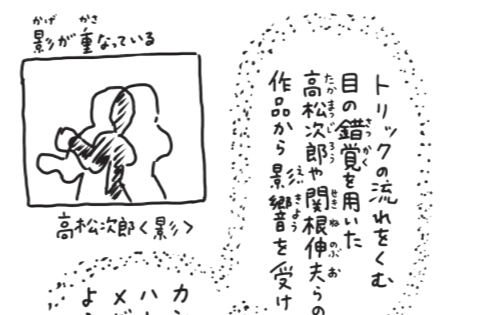


当時、世界的にも多くの若者が政治運動や社会運動に関わり、大きな変革のうねりの中にあった。



一九六六年、ギャラリー新宿の運営に関わるようになり、その後、石子順造と出会い、

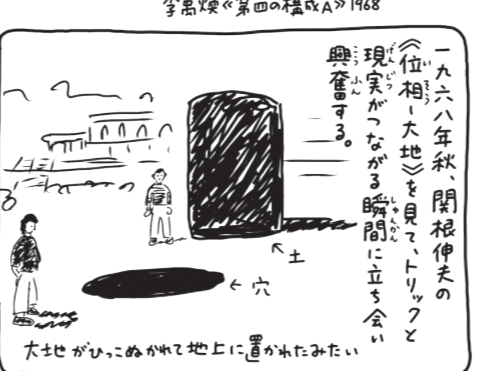
当時開催された「グループ・幻触」による展覧会でも、さまざまなトリックに興味を持つ。



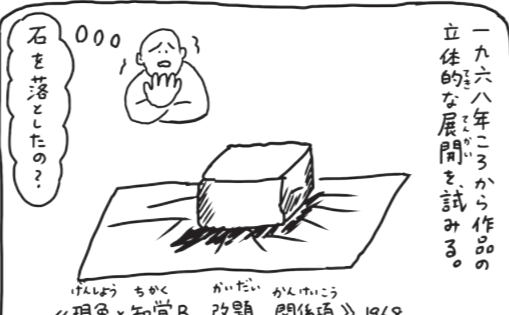
トリックの流石をくま目の錯覚を用いた高松次郎や関根伸夫らの作品から影響を受け



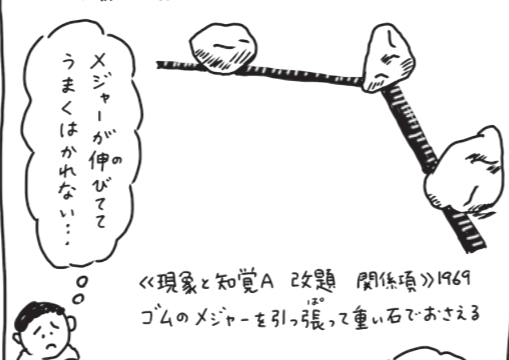
カンヴァスと蛍光塗料でハレーションを起す作品や、Xビームの輪を平面化したような試みを一年ほど続ける。



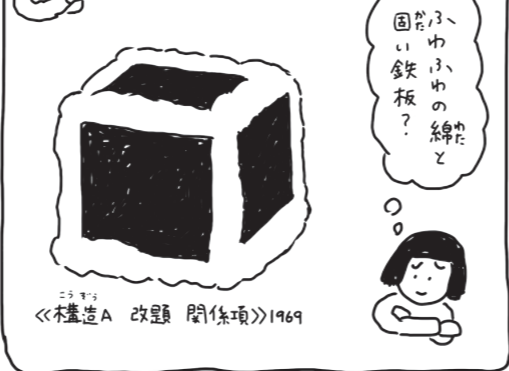
一九六八年秋、関根伸夫の《位相大地》を見て、トリックと現実が交錯する瞬間に立ち会い興奮する。



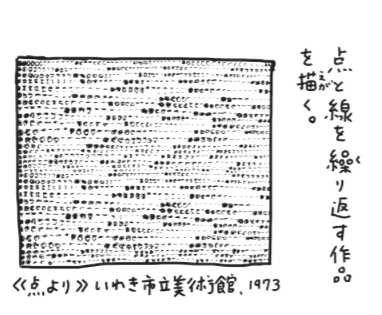
一九六八年ころから作品の立体的な展開を試みる。



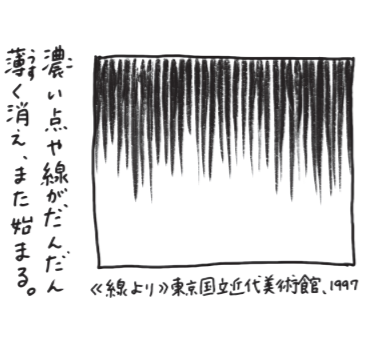
《現象と知覚B 改題 関係項》1968



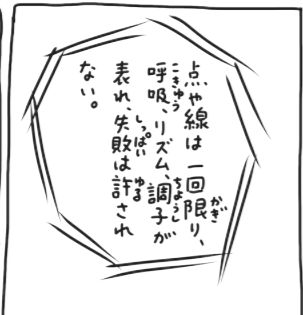
《現象と知覚A 改題 関係項》1969
コマのメジャーを引っ張って重い石でおさえる



点と線を繰り返す作品を描く。



《線より》東京国立近代美術館、1997



点や線は一回限り、呼吸リズム調子が表れ、失敗は許されな



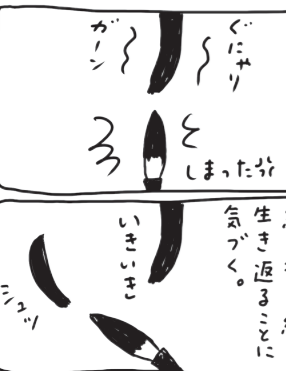
《点より》いわき市立美術館、1973



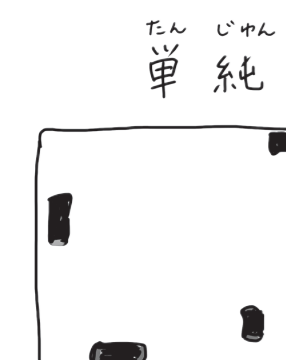
まるで自己修練のよう。



一九七〇年代半ばから次第に制作と発表の場をヨーロッパに移す。



多摩美術大学で教えるながら、来たり。



《単純》神奈川県立近代美術館、1992



筆のあとがぼつり濃厚。



二〇〇四年以降壁に直接描くことも。



一九六九年美術出版社「芸術評論」で論考「事物から存在へ」が受賞。



一九七一年には「出会いを求めて」刊行。文章でも活躍する。

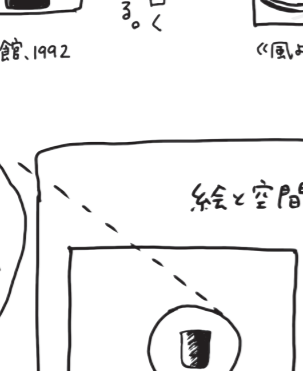


《混とん》豊田市美術館、1985

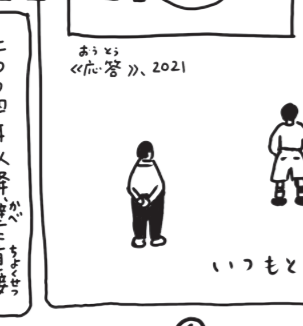
点と点、線と線の間にある空間を意識するようになり、一九八〇年代には、厳しい規則から離れ、点や線がぼろぼろになる。



身体を追い込みすぎてしまった。そんな中、

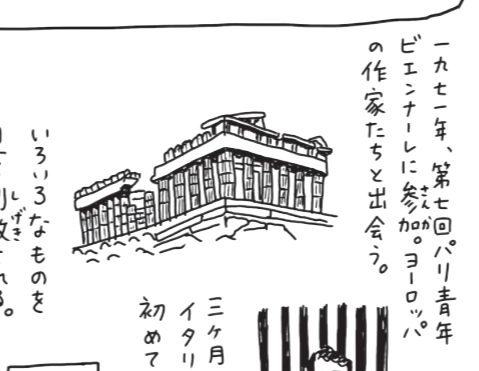


《対話》公益財団法人福岡財団/多摩美術大学、2009



《心答》、2021

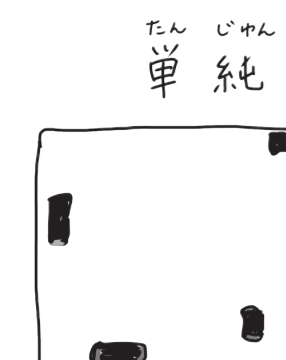
そして二〇〇〇年、二個の点で構成される絵が登場。わずかな西女まふでまわりの空間が変わる。



一九七一年、第七回パリ青年ビエンナーレに参加。ヨーロッパの作家たちと出会う。



二ヶ月にわたるアメリカ、イタリア、アメリカなど初めての世界旅行。



《心答》、2021



《対話》公益財団法人福岡財団/多摩美術大学、2009



《心答》、2021